

敬正寺（きょうしょうじ）真宗大谷派

『大化年中（645～649）に道昭法師により創建された永楽時の遺跡といわれる。永楽時は、興隆寺、道昭寺、法興寺など教坊を有する大規模な寺院であったが、その後火災をうけ寺域も狭くなり、寛永二年（1625）に敬正寺と改称した。当寺には永楽時の本尊五智如来（五輪仏）のうち二体の石仏が安置されている。この石仏は大日如来と阿弥陀如来の像といわれ、江戸末期～明治初期に掘り出されたもので、なお三体が発掘されずに埋もれているという記録がある。二体の石仏は彫と容姿の様子から平安から鎌倉初期のものといわれ大阪府重要文化財に指定されている。』平野区役所